

～取組状況～ 信濃川中流及び魚野川大規模氾濫に関する減災対策協議会

- 信濃川魚野川が合流し背後の山に挟まれた長岡市東川口地区では、地域住民主体の防災ワークショップが開催され、地域の防災に関する課題や改善方策について議論された。
- 議論では、専門家（防災科学技術研究所、大学研究者等）がファシリテータとして支援したほか、行政機関（信濃川河川事務所、長岡市）からは水害リスクや防災情報入手方法等について解説。
- 地区では、このワークショップでの議論を経てより良い防災訓練につなげ、地域防災力の向上を図っていくこととしている。

■長岡市東川口地区防災ワークショップの様子（平成29年2月、6月）



信濃川河川事務所職員が、地域の水害リスクや水害時の防災情報の入手方法等について解説。

H23新潟・福島豪雨の状況写真を見て、「魚野川がこれほど危険な状況になっていたとは知らなかった」との声も。



グループ毎に、「いつ・どのように逃げるのか？」「逃げ遅れがないようにするためにどうすれば良いか？」などについて議論。

参加者からは、堤防が出来る以前に洪水が頻発していた頃の経験談も聞かれた。



各班で話しあった内容について、発表。写真は、出てきた各意見を付箋で貼り付けたもの。

※本ワークショップは、防災科学技術研究所 気象災害軽減イノベーションセンター長岡サテライトの事業の一環で実施されている。